



砂糖菓子の弾丸は撃ちぬけない

著 桜庭一樹／イラスト むー

KADOKAWA 2004 年

げんじつ いぬ
つらい現実を生き抜くために
ひつよう さとうかし だんがん
必要だった「砂糖菓子の弾丸」とは。

うみべ いなかまち く
海辺の田舎町に暮らす中学生・山田なぎさは、父親の他界後、母親と引きこもりの兄と一緒に過ごすなかで、世の中にコミットできる直接的な力＝「実弾」を求めるようになっていた。そんな折、なぎさのクラスに「人魚」を自称するエキセントリックな転校生・海野藻屑が現れる。空想的な言動を筆頭に、実体のある力を持たない「砂糖菓子の弾丸」を放つ藻屑になぎさは翻弄されつつも、彼女の不思議な魅力に惹かれ、やがて友人となる。しかし、本作の冒頭で示されるように藻屑には、避けようのない悲劇的な結末が待ち構えており、その原因こそが父親による虐待だった。そして、藻屑が撃ち続けた「砂糖菓子の弾丸」は、実はこうした現実を生き抜くための手段だったのである。自らの生存をかけて世界と戦う／戦った少女たちに、あなたは何を思うだろうか――。

貧困

子ども



86―エイティシックス―

著 安里アサト／
イラスト しらび

KADOKAWA 2017 年～

じこ そんちよう
自己と他者を尊重し合うことが
そこ きけんせい
損なわれることの危険性。

ぶたい きょうわこく りんごく むじんへいき
物語の舞台であるサンマグノリア共和国は、隣国の無人兵器
〈レギオン〉による侵略に対抗すべく、同型兵器〈ジャガーノート〉を投入しての迎撃・防衛を行っていた。無人兵器同士の戦闘ゆえに戦死者はゼロ――。しかし、公にはそう発表されるものの実態は全く異なっていた。表向きは無人兵器とされている〈ジャガーノート〉には、白系種を優遇する共和国によって「人の形の豚」と見なされた有色種、通称「エイティシックス」が搭乗し、犠牲を厭わず、戦死者の扱いも受けられないまま戦わされていたのである。戦争下の人種差別が生んだ最悪の狂気に対して、「エイティシックス」や彼らの理解者は何を考え、どう抗していくのか。その様を描く本作

が示唆^{し さ}しているのは、人間^{たが}が互^{そんちょう}いを尊重^{きけんせい}し合う大切さはもとより、それが損^{そこ}なわれること自体の危険性である。

#戦争被害

#人種・民族



ミモザの告白

著 八目迷／イラスト くっか

小学館 2021 年～

多様性^{せい そんちょう}を尊重する時代ならではの
他者と向き合う悩み^{なや}と葛藤^{かつとう}を描く^{えが}。

「今日から女子としてやっていきます」。成績優秀^{せいせきゆうしゅう}でスポーツ
万能^{ばんのう}、女子からの人気も高い美少年の高校生・槻ノ木汐^{つきの きうしお}は
ある日、クラスメイトにそう告^つげる。心と身体^{せい}の性^{ふい}の不一致^{いっ}
に悩^{なや}んだ末^{すえ}、心にしたがって「正しく生きる」ことを選^{えら}んだ
汐^{うしお}であるが、幼馴染^{おさなじみ}の紙木咲馬^{かみ き さくま}をはじめとする周囲^{しゅうい}の人々
は、突然現れた「異質^{いしつ}な他者^{はんのう}」に様々な反^{はん}応^{おう}を示す。そして、
人間関係^{かんけい}の急変^{きゅうへん}に汐^{うしお}自身も苦しむなか、咲馬^{さくま}とクラス^{あい}の愛
されキャラ・星原夏希^{ほしはら なつき}は汐^{うしお}に寄り添^よい、少しずつ、理解^{りかい}の道
を探^{さが}し始める――。性自認^{せいじにん}というセンシティブな題材^{だいざい}を、多
感な主人公たちの青春・恋愛模様^{れんあいもよう}に重ねながら、他者との
向き合い方をめぐる等身大の悩み^{なや}や葛藤^{かつとう}を描^{えが}いていく本作。
読後^えに得られる多くの気づきは、多様性^{せい そんちょう}を尊重する世界を
作る／生きる上で間違^{まちが}いなく、貴重^{きちょう}な糧^{かて}となることだろう。

#LGBTQ+

#子ども



目白大学人間学部 子ども学科専任講師

山中智省 Tomomi Yamanaka

1985 年静岡県生まれ。横浜国立大学大学院前期課程修了。専攻は日本近現代文学、サブカルチャー研究。近年は、文学研究の視点からライトノベルの発展を追う。近著に『小説の生存戦略：ライトノベル・メディア・ジェンダー』（青弓社、2020 年、共編）など。